



釧路開拓移民団出港の地記念碑



写真：岡村吉彦（2012）賀露港（鳥取港）の「みなと文化」より

鳥取県再置後、初代県令として赴任した山田信道は、鳥取士族の授産のために、2,000 戸を北海道へ開拓移住させようとした。

また、明治政府も、札幌・釧路・函館の3県に、鳥取士族のために「移住士族取扱規則」を制定させました。明治17(1884)・18(1885)年には釧路と岩見沢に105戸ずつが移住、その後は「屯田兵」として移住しました。

鳥取士族の移住は、容易に帰れない北海道に送り出すことで、北海道の開拓と士族授産の名のもとに難治県の鳥取士族の解体を目指したものでした。

北海道に渡った移住者たちを待ち受けていたのは、北の大地の想像を絶する寒さでした。住居はバラック作りで畳は1戸に6畳しかなく、壁や屋根は隙間だらけで、冬には雪が吹き込み、飯や醤油なども凍ったと言われています。それでも彼らは刀を鋤に持ち替え、未開の荒野を歯を食いしばって開墾し、現在の釧路市のもとになる「鳥取村」をつくりました。

「鳥取村」は、のち釧路町と合併して「釧路市」となりました。今でも釧路市には、鳥取神社、鳥取小学校、鳥取大通りなど「鳥取」の地名が多く残っています。

昭和38年には、鳥取市と釧路市は姉妹都市となりました。また、明治2年に鳥取士族が郡山市郊外の安積開拓に移住した縁で、2005（平成17）年、郡山市と鳥取市は姉妹都市になりました。

出典

賀露神社ホームページ <http://karojinjya.jp/index.php?id=106>



鳥取県人の北海道開拓移住 鳥取県立公文書館 新鳥取県史を活用したデジタル郷土学習教材

https://www.pref.tottori.lg.jp/secure/1251968/k1023_3.pdf



鳥取県人の北海道移住Ⅱ 平成10年度公文書館展 鳥取県立公文書館

https://www.pref.tottori.lg.jp/secure/1135332/hokkaido_izyu_pamph.pdf

